



# ようこそ畠へ



2019年2月

## ファーム伊達家・旬の野菜セット 2019 会員募集のご案内

ファーム伊達家は、藤野に移転して2年目のシーズンを迎えます。豊満で新規就農してから15年目になります。

就農当時から続けている「ファーム伊達家 旬の野菜セット」は少しづつ形を変えながら、多くの会員さんの支えにより、ここまで続けてくることができました。

農業には様々な形があります。大規模な農地で一つの作物を大量に生産して社会に供給するのも農業、ファーム伊達家のように、小さな畠で多品種の作物を栽培するのも農業、いろんな農業があるのが健全な姿だと思っています。

ファーム伊達家は、「自然栽培」という方法で野菜を作っています。簡単に言うと、肥料・農薬を投入せず、毎年自分の畠で種採りを繰り返し、土や作物が本来の力を発揮して健康に育ち、おいしい野菜を私たちにもたらしてくれる農業です。化学肥料を用いる一般栽培や、動植物由来の肥料を用いる有機農業とは違う農業です。

この自然栽培をもっと広めていきたい、というのがファーム伊達家の願いです。

そのために、まず大切なことは、おいしい野菜をたくさん作って、多くの方に食べていただくことです。そして、その野菜が食べて下さる方の日々の暮らしの原動力になったなら、農家としてとても嬉しいです。

昨年は、6月下旬から7月の前半の長雨と低温、9月上旬の台風と地震などがありましたが、移転1年目としては、ますますの作柄でした。

マンズナル、さやいんげんなどの豆類は上出来でしたが、カボチャやミニトマトは全く採れず、野菜セットに入れることができませんでした。冬の間に昨年の栽培データを整理し、改善点を反映した作付け計画を作り、雪が融けたら着実に実行に移していきます。

「ファーム伊達家・旬の野菜セット」は、作る私たちと会員の皆さんで自然栽培の野菜を分かち合うことにより、自然の恵みとリスクを共有し、互いに支え合っていく農業のひとつの形です。

今シーズンも、会員の皆さんと、美味しく、楽しくつながっていきたいと考えていますので、「ファーム伊達家・旬の野菜セット」へのご参加、お待ちしております。

## ファーム伊達家旬の野菜セット 6つのポイント

### Point1 農場から直接お届けします。

各回のお野菜は、①各ご家庭に直接お届け、②トモ工幼稚園で直接手渡し、③宅配便、のいずれかの方法でお届けします。

### Point2 おたより「ようこそ畑へ」をお届けします。

野菜と一緒に、ファーム伊達家からのおたより「ようこそ畑へ」をお届けします。畑の様子、農作業をしながら感じたこと、皆さんとの会話の中で感じたことをお伝えしていきたいと思います。

また、「伊達家の食卓」のコーナーでは、伊達家の野菜を簡単においしく食べるためのレシピを紹介していきます。

会員の皆さんからも、野菜をどんな風に食べたか、家族の反応、ご意見など直接聞かせてもらえると嬉しいです。もちろんメール、FAXなどのメッセージをいただき、交流を深めていきたいです。

また、「ファーム伊達家Webサイト」では、過去の「ようこそ畑」を公開しています。「ようこそ畑へアーカイブズ」で検索してみてください。

### **Point3 自然栽培で育てます。（→P7をご覧ください）**

野菜は全て肥料も農薬も投入しない自然栽培で育てます。

### **Point4 在来種（固定種）を使います。**

野菜の品種は、現在主流の交配種（F1）ではなく、在来種（固定種）を使います。その味わい深さを楽しんでいただけたと想います。

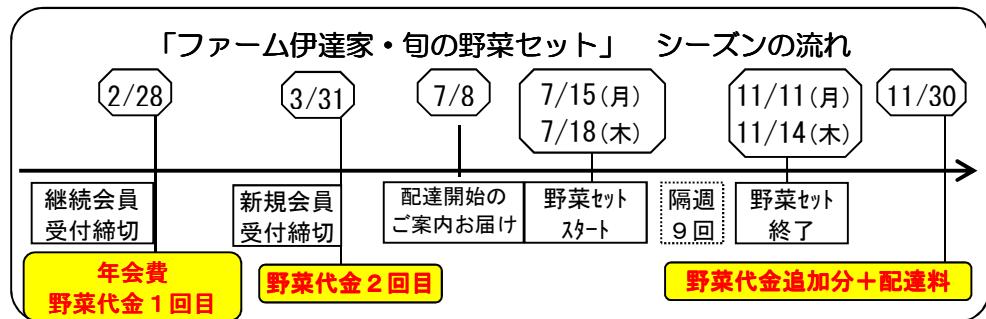
### **Point5 自家採種した種を使います。**

約8割の野菜で、昨年ファーム伊達家の畑で採った種を使います。世界に一つだけのファーム伊達家の野菜をお楽しみください。

### **Point6 畑に遊びに来てください。**

皆さんに畑をより身近に感じてもらえるよう、様々な農作業体験や畑を楽しむ企画を準備しています。会員価格で参加していましただけです。ぜひ、ご家族で畑にいらしてください。

## **「ファーム伊達家・旬の野菜セット」の販売方法**



### **【配達曜日と期間】**

(7月8日頃、配達曜日、開始日のお知らせを届けします。)

- 配達日 2週に1回（月曜または木曜）

トモ工幼稚園で受け取る方は木曜日です。

方面別に配達するためと人数のバランスを取るため、自宅で受けとる方、宅配便の方はこちらで曜日を指定させていただきます。

ます。宅配便の方は、翌日配達となります。

- 7月15日(月)・18日(木)から11月11日(月)・14日(木)まで隔週で9回(野菜の収穫状況により前後する場合があります。また、悪天候などで配達日を変更することがあります。)

### 【野菜セットの内容】

内容、数量は「おまかせ」となります。すべて、ファーム伊達家の畑で採れた野菜です。お届け予定は6ページをご覧ください

### 【年会費と野菜代金】(税込)

下の表の金額を一括または2回に分けてお支払いいただきます。  
前払い野菜代金は毎回の野菜代金に充当していきます。

実際にお届けした野菜の代金の合計が前払い野菜代金を下回っても返金はいたしません。

野菜の配達終了後、野菜代金の合計額が、前払い野菜代金を上回った場合は、追加分の支払いをお願いいたします。(下表参照)。

年会費・野菜代金(いずれも税込)

支払期限	2/28(木)		3/31(日)	11/30(土)
内訳	年会費	前払い 野菜代金 1回目	前払い 野菜代金 2回目	追加野菜代金 + 配達料
金額	10,800円	12,200円	12,000円	金額は別途 お知らせ

※支払い方法は、5ページの【申込期限】をご覧ください。

### 【野菜の受け取り場所と配達料(税込)】

自宅配達エリア	
南区	南区以外
¥216	¥324

(野菜代金の追加代金と一緒に11月30日までにお支払い)

- 自宅配達エリアは、南区、中央区、西区、豊平区の一部とさせ

ていただきます。1箇所で2家族分受け取る場合の配達料は半額になります。

- 夏休み中は、「トモ工」受け取りの方も自宅までお届けします。
- 上記自宅配達エリア以外については、ゆうパック料金（実費）を負担していただきお届けいたします。

（参考）道内 60 サイズ 620 円 80 サイズ 830 円  
道外は別途

### 【キャンセルについて】

旅行や帰省等で不在のため、キャンセルする場合は前日までに連絡してください。

なお、野菜を受け取れない場合に、お友達などに代わりに受け取ってもらうのも一つの方法です。この場合、野菜はこちらからお渡しし、代金は会員の方からいただきます。野菜をプレゼントするか、代金を受け取るかは会員の方が決めて、代金のやりとりは当事者同志でお願いいたします。

### 【申込期限】

会員数は60家族程度を見込んでいます。

（昨年から継続の方）

2月28日（木）までにお申込みのあった方は、優先的に受け付けをさせていただきます。

申込書に年会費と野菜代金を添えてお申し込みください。

年会費と野菜代金の支払いパターンは次のとおりです。

- ① 一括払い 35,000円（年会費+野菜代金1回目・2回目）
- ② 分割払い 23,000円（年会費+野菜代金1回目）申込時  
12,000円（野菜代金2回目）3/31まで

申込書と年会費等は直接手渡していただくか、申込書を郵送またはFAXするか、申込書を撮影してメール添付などで送信し、年

会費等を口座振込してください。

振込先口座（口座名義人 伊達寛記）  
ゆうちょ銀行 19720-6627541  
北洋銀行藻岩支店 3660100

### （新規申込みご希望の方）

15家族程度を新規会員として募集します。ご希望の方は、まずメールなどでご一報ください。

15家族を超えた場合は、昨年からの継続の方の申し込みが終わるまで、空席待ちをしていただきます。継続会員の申し込み受け付け後、3月中旬頃、こちらから連絡させていただきますので、順番待ちを希望される方は、電話、メール、ファーム伊達家Webサイトの「お問合せ」などでご連絡ください。

**野菜のお届け予定** 作物の生育状況により変更することがあります。

7月	8月	9月	10~11月
レタス サニーレタス 水菜 さやえんどう ズッキーニ きゅうり ラッパリー デイツユ	青しそ さやえんどう さやいんげん ズッキーニ きゅうり なす ピーマン ミニトマト	青しそ さやいんげん ズッキーニ なす ピーマン ミニトマト	かぼちゃ 小松菜 水菜 春菊 ルッコラ ミニトマト タアサイ 白菜 枝豆 キャベツ しその実
			大根 じゃがいも 人参 ヤーコン デイツユ 小かぶ ねぎ なす ピーマン

### 【連絡先】ファーム伊達家 伊達寛記・愛子

061-2285 札幌市南区藤野5条7丁目3-5

TEL/FAX 011-206-4036 E-mail : sunrise@farmdate.jp

寛記 090-7517-8020 farm-date-family.hd@softbank.ne.jp

愛子 080-4502-0569 df.h-a-rks.3698@softbank.ne.jp

ファーム伊達家 Web サイト <https://farmdate.jp/>

Facebook ページ 「ファーム伊達家」

## ファーム伊達家の自然栽培

ファーム伊達家では、農業においては、農作物が美味しいと、食べる人のエネルギーになるようなものであることが大切だと考えています。

そのために取り組んでいるのが「自然栽培」です。この 10 年ほど、「自然栽培」という言葉を耳にする機会が増えてきました。

ここで改めて、ファーム伊達家の自然栽培について整理してみたいと思います。

作物を育てる方法はいろいろありますが、「肥料」という観点でみると、以下のように区分できます。

一般栽培 (慣行栽培)	有機栽培	自然栽培
化学肥料 有機肥料	有機肥料	肥料を使わない

つまり、肥料を使用する栽培のうち

有機肥料のみを使用するものを・・・・・有機栽培

化学肥料・有機肥料を使用するものを・・一般栽培（慣行栽培）といいます。

一方、「自然栽培」は、化学肥料も有機肥料も使いません。

ここが「自然栽培」が他の栽培法と違う、一番の「肝」です。

自然栽培の特徴はこれだけではありません。

- 化学肥料・有機肥料を投入しない  
(人間が養分を供給するという発想を捨てる)
- 農薬を使用しない
- 固定種（在来種）を自家採種する

これら三つの条件をベースに栽培に取り組み、美味しい農産物がたくさん採れ、それが経営的にも、環境的にも持続可能であることが「自然栽培」の目指す姿ですが、1つ大きな課題があります。

それは、自然栽培をはじめに当たって、過去に投入され、土の中に残っている過剰養分をどうやって減らしていくか？ということです。

これまでに分かっていることは、土の中から過剰な養分が抜けて行けば、虫・草・病気の発生はほとんどなくなり、結果として農薬はいらなくなくなります。加えて、自家採種を続けることにより、種が養分の少ない畑で育つ力を取り戻せば、肥料を投入せずとも、虫や病気や草に悩まさ

されることなく、作物が健康に育つようになるということです。

ただし、ここで問題なのは、栽培上「肥料をやめる」だけでは、養分が抜けていくまでにそれ相応の年数が必要になるということです。作物や草が過剰養分を吸ってくれますが、それでは時間がかかりすぎるということです。その間、虫や病気が発生したり、草に負けたりして、作物の収穫量が減り、農家の経営が厳しくなることがあります。

農法としては「その時期を耐え忍び、養分が抜ければ作物ができるようになる」ということですが、農産物を生産・販売し、それで生計を立てていく「農業」としては継続が難しくなり、自然栽培を断念する農家が多かったのが、昭和10年から続く自然栽培の歴史です。

ファーム伊達家では、昨年藤野に移転してから、この課題の解決に取り組んでいます。過去に投入され蓄積された過剰養分を畑から抜き、肥料を投入しなくても作物が栽培でき、経営的にも永続できる自然栽培のノウハウを作ることに取り組んでいます。

養分吸収力が強く、根を深く張る「ひまわり」を畑に植えて、養分の減少量を分析しながら、根で土を耕すことにより、畑の深いところまで柔らかく、水持ち水はけの良い土に転換することを目指しています。

これがうまくいけば、もっとスムーズに自然栽培に転換することが可能になると思います。そうなれば、もっと自然栽培を普及することができます。

地産地消とか食料自給率の向上が言われるようになって久しいです。

しかし、意外と見落とされているのが、肥料や種の自給についてです。どちらも、その多くを輸入に頼っているのが実情です。

つまり、食糧を自給するための資源を海外産の肥料や種に依存しているという状況であるということです。

有機栽培は、日本の全耕地面積の0.2%と言われています。仮に、有機栽培が今より広がっていくとすると、有機肥料をどうやって確保するかが課題となると考えられます。

その点、自然栽培ならば、肥料は使用せず、種は自家採種で自給しますので、その転換方法が確立でき、経営的に持続可能であることが証明できれば、真に永続可能な農業として広めていくことができそうです。

ファーム伊達家では、畑も、作物も、人も健康に育ち、経営的にも永続できる自然栽培になるよう、今年も研究と実践を続けていきます。

その内容は、農業体験プログラム「土・種・人 ともにあゆむ1年」でもお伝えします。また、ファーム伊達家WebサイトやFacebookでも発信していくので、ぜひご覧ください。